



鼎談 「止まらぬ地方衰退、どうする？」

全国滋賀県人会連合会 会長

上野 幸夫

全国滋賀県人会連合会 副会長

植本 勇

益田市 市長 (島根滋賀県人会長)

山本 浩章

対談日:平成30年7月31日

場所:小泉株式会社応接室(大阪)

山路来て なにやらゆかし 莖草 (芭蕉)

島根県益田市とは
上野会長…今日は大阪への出張とのこと
 で、ご多忙の中、お越しいただき、有
 難うございます。
山本市長…益田市は人口46,224人
 (2018年4月)、面積733,19
 kmで島根県の十分の一になります。
上野会長…「おうみの風」52号では守山市
 長と対談しましたが、今回は益田市長
 にお話ししました。こうした形で、各
 県人会との親睦を深めていきたいと思
 います。

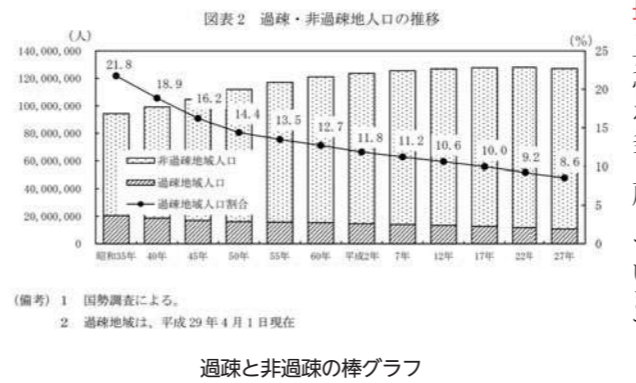


山本 浩章 益田市長 (島根滋賀県人会長)

国立社会保障・人口問題研究所によ
 る地域別2045年推計人口では、都
 市圏に若年層が集中することが判明
 し、また総務省の総人口の推計で「東
 京一極集中」の流れに歯止めがかから
 ず、地方の衰退が止まらない現状が浮
 き彫りとなりました。政府は地方創生
 の旗を振り、地方に向かう人の流れを
 作るようしていますが、目に見える成
 果を上げるのは至難の業です。そこで、
 打開策を話し合うべく、山本益田市長
 を迎え、対談しました。



人口減→社会減→自然減
山本市長…益田は年間400〜500人
 べーで人口が減少しています。昭和25
 年が人口のピークで7万3千人で、そ
 の後一貫して減少しています。当初は
 社会減が主で、若者が進学や就職で他
 に出ていって、戻って来ないのが要因
 でした。これを食い止めるには雇用創
 出が一番の解決策でした。しかし、今
 は社会減よりも自然減が多くなってい
 ます。人口構成が高齢化し、若い世
 代が少ないため、自然減だけで年間
 300人以上になります。社会減はほ
 ぼ収束しています。都会から田舎暮ら
 しをしようとする人が多くなっていま
 す。一方、企業誘致でネットワークになる
 の働き手がなかなかいないことです。



**三日月知事と各県人会との接触は県
 人会を大切に思っている**
上野会長…三日月知事は国体があれば、そ
 の県の県人会と接触しておられること
 は県人会を大切に思っていること評価し
 ますし、私もこの県人会を大切にしま
 なければならぬと思っています。ここ
 るで、地方のどこも、島根も厳しいの
 では、以前、滋賀県では工業団地をい
 くつも作り、誘致してきました。
植本副会長…雇用も大きいのでは？
上野会長…女性を多く雇っています。

山本市長…島根県の県人会長を引き受けま
 したが、7年前に市議会議員選挙があり、
 市議会議員になり、7か月でやめ、市長
 選挙があり、市長になり、6年になり
 ます。

人口減の原因
山本市長…人口減の原因は3つあり、1つ
 は人口の規模が域内の生産や消費に比
 例することから、経済規模が縮小する
 こと。2つ目は、高齢化により社会保
 障の経費が増えていく一方、その負担
 をする若者が減っていくと、社会保障
 の持続可能性が難しくなっていくこ
 と。3つ目は地域の先行きに悲観し、
 見切りをつけて転出しようという流れ

地域に愛着と誇り
山本市長…そこで、益田市は子どもたちに
 地域に愛着をもってもらい、地域に誇
 りを持ってもらって、一度大学に行っ
 ても益田市に戻ってもらうよう、取り
 組んでいます。まずそこで、益田市で
 は平成26年2月に人口拡大計画を策定
 しました。



益田市の歴史 石見の雄「益田氏」

平安後期の11世紀頃に藤原國兼が石見国司(県知事に相当)として現在の浜田市に赴任。4代兼高が石見で最も広い平野で、交通の要衝と港に適した益田に本拠を移し、「益田氏」を名乗り、壇ノ浦の戦いでは手柄を立てました。11代兼見は山口の大内氏と結び、文化への造詣も深く、15代兼義は大内氏の庇護下にあった雪舟を招き、厚遇。毛利氏とも和睦。しかし、慶長5(1600)年関ヶ原の戦いで毛利氏が敗れ、長門(山口県)に去りました。益田氏治世下の400年間、七尾城の城下町として築かれたため、益田市は中世の城下町のなごりを持つ、全国的にも特色ある町とされています。





ワサビ田



ゆず



島根県無形民俗文化財 益田糸あやつり人形



土田海岸 (益田市内)



植木 勇 全国滋賀県人会連合会副会長 (大阪滋賀県人会会長)

植本副会長…産業でも、観光でも使えます。
上野会長…湖東三山インターを作りましたが、今は1日5千台を超える利用があります。
植本副会長…農地を法人化して取り組んではいかがですか。スーパーとも組んで、滋賀県なら平和堂などあります。
山本市長…益田市はどちらかといえば稲作に偏っておらず、果物・野菜、特にゆず、わさびなど特色のある農産品が多いので、バラエティが豊かです。ただ産出高が少ないのが問題です。また現在農業の後継者、担い手をどう確保していくかが課題です。
植本副会長…農地を法人化して取り組んではいかがですか。スーパーとも組んで、滋賀県なら平和堂などあります。
上野会長…湖東三山インターを作りましたが、今は1日5千台を超える利用があります。
植本副会長…産業でも、観光でも使えます。

ができてしまうと、人口減少の負のスパイラルが起きることです。

交流人口の増加

山本市長…その対策として、人口減は社会減と自然減、それぞれを改善しようと考えました。社会減については入ってくる人を増やすことを考える一方、出ていく人を減らす必要があります。自然減の方は出生数を増やすことを考え、亡くなつていく方も長生きをしていただくことを考えました。もう一つは定住人口以外に交流人口も大切で、旅行とか仕事とかで一時的に滞在期間が長くなれば、経済効果も増えます。または定住のきっかけになります。

その後、「増田論文」(2014年、地方消滅が主題)が出てきて、三大都市圏、東京、大阪、名古屋の人口がどんどん増え、逆にそれ以外の地方が減少していく、すると、地方自治体の運営が成り立たなくなり、地方自治体が消滅していくとされ、その結果、日本全体が立ちいかなくなる、というものでした。

人口の地方分散

—益田市の「ひとづくり協働構想」—
未来の担い手(子供)・仕事の担い手・地域の担い手
山本市長…そこで、地方に人口を分散させる施策を国でも実施することになり、都道府県、市町村でも地域振興、特に人口減少に歯止めをかける施策、そのために総合政策を作りなさい、という

ことになりました。益田市は既に人口拡大政策をつくってしまいました。それをベースに益田市の総合政策を作り、色々な地域をテコ入れしていくにあたり人材確保に重きを置きました。そこで総合政策から一歩進めて「ひとづくり協働構想」を平成28年3月に策定しました。これは現在益田市の目玉の政策の一つです。この協働構想では3つの担い手に集約。1つは未来の担い手、益田市で生まれ育った子が益田市で将来生き活きと活躍してもらえような、先を見据えた政策をやっていくこと。2つ目が仕事の担い手、仕事の支えとなる人材、若い人も高齢者も含め、育成していくこと。3つ目が地域の担い手づくり。運営スタッフを育成していくこと。この3つを軸に進めています。

農地転用で人口増へ

上野会長…滋賀県の工業は力があります。市町村合併で13市6町になり、そのうち人口増は3市(草津市、野洲市、守山市)1町(愛荘町)になっています。



上野 幸雄 全国滋賀県人会連合会会長

山本市長…私も甲良町に帰省するときは重宝しています。高速道路も益田市の課題です。山陰道といってもまだまだ欠けているところが多く、山陰道は片側1車線です。
上野会長…三山インターの近くに、ノートのココロが来て、一大工業団地になっています。
山本市長…高速道路ができると、ストローク効果といって、人口が吸いとられるという話もありますが、製造拠点としては、高速道路がないと話になりません。
IOTでデータ蓄積→将来予測
山本市長…ところで、現在、市内の企業と市とで水量の実証実験を行っています。豪雨になると冠水しやすい市内の水路をIOT (INTERNET OF THINGS) によるセンサーを6か所設置しました。そのことにより、降雨量がいくらで、何分後にどの水量がどれだけになるか、このデータがどんどん積み重なります。そうすると、冠水を未然に防げる事になります。また10月からの予定ですが、血圧測定を地域の多くの方に毎日測定してもらって、そのデータを蓄積していきます。初年度は2〜300人、いずれ2000人規模で行い、5年くらいすると、脳疾患や心疾患になった人のデータを分析することで、病気の早期治療や防止が可能になります。国の社会保障費の増大という大きな問題の改善や解消につながると思います。オムロンヘルスケアによる電波を付けた血圧計の無

AIの活用により、持続可能な日本の未来に向けた政策提言→「地方分散型」

京都大学が日立のAI技術を活用して分析。「少子化」「環境破壊」など149の社会要因により因果関係モデルを構築し、シミュレーションにより2018年から2052年までの35年間の動向を分析。その結果、8~10年後には都市集中型か地方分散型かの分岐点があると。また17~20年後には地方分散型が持続可能か不可能かの分岐点があると予測。持続可能性の観点からは地方分散型が望ましく、分岐点に至る前に、環境課税や再生可能エネルギーの活性化、地域内エネルギーの自給率上昇、地域公共交通機関の充実、地産地消などの政策誘導が必要であると分析。

先端技術、つくば市ごと実験場—ベンチャー企業 VOTE FOR (東京都港区) と組む

ネット投票、残業減、役所の業務自体を実験場にする試み。将来的に職員減に直面する自治体に普及させるために国による環境整備が不可欠で、この試みを全国の自治体が共有し、国も取り込んでいく、そうした時代になってきました。

人口推移

| | 滋賀県 | 愛荘町 | 島根県 | 益田市 |
|---------|-------|---------|-------|---------|
| 2015年人口 | 141万人 | 20,778人 | 69万人 | 47,718人 |
| 2045年人口 | 126万人 | 21,475人 | 53万人 | 31,508人 |
| | 12%減少 | 3.4%増加 | 30%減少 | 32%減少 |
| 75才以上 | 19.5% | 10.8% | 23.9% | 25.7% |
| 生産年齢人口 | 53.2% | 69.1% | 49.2% | 46.3% |

※75才以上、生産年齢人口共に%は構成比

愛荘町の人口が増えているのは、愛知川時代に農地を解放しよう、農地転用を徹底的にしてきました。増えるように、「青」(農業利用を確保する)を「白」(農地の集団性が低く、土地利用改良事業の未実施地区)に変えてきたからです。これには行政の関わりは重要だと思えます。愛荘町の人口の増え方で分かりました。
植本副会長…農業組合、農業委員会などの承認は必要でしょう。
上野会長…当然承認は必要です。議会の承認も必要です。旧の秦荘や愛知川から能登川駅までのバス停ごとに「白地」の農地を作り、それが今や全部家になっています。



萬福寺雪舟庭園



医光寺雪舟庭園

償提供を通じて、島根大学医学部にデータ蓄積していきます。

山本市長…このデータ蓄積によっても、益田市はずっと地域の健康づくりに取り組んできました。また一方、自転車も益田市も盛んです。益田市で全日本自転車競技選手権大会が行われました。益田市は一般道は交通量が多くな、郊外は信号もほとんどなく、ロードレースでは理想的です。

観光では、雪舟が作った庭が日本では4つありますが、そのうち2つは益田市の医光寺と萬福寺にあります。

益田市の産品を平和堂で

上野会長…現在島根と滋賀でモノが動いていません。果物を平和堂などで売ってもらうようにできれば、と思います。

植本副会長…平和堂の仕入会の副会長をしていますので、仕入れに関してはいつでも相談できますし、益田の産品を定期的に1店舗でもいくつかの店舗で扱うようにします。

山本市長…私と担当者で平和堂の本社まで伺いますので、よろしくお願いします。中国の寧波には雪舟が修行したお寺があり、益田市との交流があります。

関係人口の増加

山本市長…益田市と滋賀県がつながると、双方の関係人口が増えます。

上野会長…今日は全滋連と益田市長との対談と聞いていましたが、こういうアドバイスがあると、どこかに縁・関係があるのだと思います。滋賀県内だけで

なく、滋賀県外の人との対談も必要で、益田市長さんをお願いしたのです。5月の総会でも「滋賀県の血」が流れていることを痛感しました。「目に見える」のではないではなく、「目に見える」関係があります。

山本市長…島根の県人会は多くないので、皆さんが「滋賀県出身」であることを誇りに思っています。私は益田市長ですから、まず益田市民のことを考え、滋賀県を大事に考えていますので、それこそ三方よし、益田よし、滋賀県よし、世間よし、でやっていきたいです。

上野会長…今日はご多忙の中、「対談」をさせていただき、また有意義なお話を聞かせていただき、ありがとうございます。市長として多忙とは存じますが、今後とも5月の全滋連の定期理事会、総会、懇親会には参加いただき、交流を深め、お互いに刺激し合いながら、全滋連を盛り立てていきたいと存じます。

今日はありがとうございました。

山本 浩章 経歴

- 昭和44年5月 滋賀県甲良町生まれ
- 昭和60年3月 滋賀県甲良町立甲良中学校卒業
- 昭和63年3月 滋賀県立彦根高等学校卒業
- 平成4年3月 東京大学法学部第1類卒業
- 平成22年12月 (株)ひょうま代表取締役社長就任
- 平成23年9月 益田市議会議員
- 平成24年8月 益田市長就任

趣味
サイクリング、読書、登山
益田の好きなお店

- 島根県立万葉公園
- 島根県芸術文化センターグラントウ

植本 勇 経歴

- 昭和13年 滋賀県愛知郡湖東町生まれ
- 昭和31年 滋賀県立愛知高等学校卒業
- 昭和58年 小泉アパレル株式会社代表取締役社長
- 平成13年 小泉株式会社代表取締役社長
- 平成21年 関西ファッション連合理事長
- 平成27年 大阪商工会議所繊維部会会長

現職

- 小泉株式会社代表取締役会長
- 小泉アパレル株式会社取締役会長
- 大阪商工会議所常議員
- 大阪滋賀県人会会長



島根・益田市の海岸道路